

# 園長だより

入園、進級おめでとうございます。

新年度を迎え、あっという間に1週間が過ぎました。今年1年も子ども達にとって実り多き年になることを願っています。

本年度も宜しくお願い致します。

さて、園長だよりは昨年、秋から発行し、怒涛のように出してみりました。「読み手の苦勞も考えず」を私なりに気にしながら、今年度は発行のペースを緩めようと考えています。

## 安心感

新しい年度、新たな生活がはじまり、大人も子ども達も少なからず緊張感をもっています。いつもいる人、いつも出逢う顔、いつも優しく声をかけてくれる人、優しく抱き上げてくれる人、毎日、同じ出会いとかかわりが繰り返されてきたことに自然と安心感を抱き、ひとり、ひとりが自分をゆだねたいと思う人との出会いが生まれ、関係が育まれていきます。

入園、進級時は一時的に関係性がダウンする時期と言われています。担任が変わる、保育室が変わる、生活様式や、生活行動もかわる。少しの変化でも今まで自然にできた行動ができなくなることもしばしばあります。

「はじめまして」と新たな関係を作る方「今年もよろしく申し上げます」と関係の連続性を持てる方、それぞれの立ち位置は異なりますが生活を通じてかかわる子ども達と大人の関係性を丁寧に育みたいものです。

## 馴染みのいる安心 大人から

おはようございます。

いってらっしゃい

おかえなさい

仕事と家事、子育て、毎日が忙しく、慌ただし毎日、保育園の先生とは多くを語りあえる時間はあまり作れないけれど、日常の挨拶や会話のやりとりから関係を育んでいきます。

関係を育んできた人がいること、顔を合わせる事がほっとできる一瞬、笑顔で受け入れられ、送り出され、迎えられる、いつもいてくれる存在に安心するものです。

新年度が始まり「はじめの一步を踏み出しました」これから先、子ども達のため、職員と保護者の関係の築きは大切と考えます。

子ども達の取り巻く環境は進行形で変化の一途をたどっています。保育の現場は環境に柔軟に対応しながらも従前から大切にしている「心の育み」を保育の中心に据えながら保育を営んでいきます。

子ども達の心の育ち、安定は関わる大人の心の安定が大きく影響を与えます。

新しい年の始まりで気持ちも新たに心地よい関係性を築いていけるよう心掛けていきたいものです。



## 新法令の実施

10年ぶりに改定され、30年4月に新しい「保育所保育指針」の法令が施行されます。保育の現場ではその内容をどう反映させるのか検討を進め、保育実践に結びつけていきます。

「保育所保育指針」と言われてもピンとこないと思います。そもそも、一般の方々には馴染みの薄い名称です。

保育所保育指針とは厚生労働省が告知する保育所における保育内容に関する事項及び運営に関する事項を定めたものです。

改定において保育観、保育内容が大きく変わるものではありません。それぞれが保育を見直すきっかけをいただいたと思っています。

子ども主体の遊びや学びが重要と位置づけられたと考えます。

## 改定されたなかで 保育の視点ポイント

新しく施行された保育所保育指針の改定ポイントは幾つかありますがそのひとつに乳児、三歳児未満の保育を丁寧に徹視的にみていくことが大切と記されています。保育の充実、質の向上は保育の実際にかかっていると思います。

今回は0歳児について考えてみます。

0歳児(乳児)について指針では3つの視点をあげています。

### ① 身体的発達に関する視点

「健やかに伸び伸びと育つ」

### ② 社会的発達に関する視点

「身近な人と気持ちが通じ合う」

### ③ 精神的発達に関する視点

「身近なものに関わり感性が育つ」

人間の成長には不可欠な身体の力、対人関係力、自己を取り巻く世界への興味関心と認識力、人間として育ち、成長していくために必要な力を乳児保育で養い、育てていくというものです。乳児の段階から今まで以上に丁寧にかかわり、みていくことが望まれます。

改定では大きな保育観、保育内容が変わることはいないけれど、子どもの育ちの実際や発達の過程を細やかに理解し把握して保育の営みにつなげていくことが要求されています。

改定に伴い、日々の保育の見直し、検証をする機会をいただき、意識的に考え、実践することが結果とし保育の丁寧さに繋がることとなります。

春の温かさが心地よく感じられ、花が咲き、新緑の鮮やかさを増してきました。子ども達も日一日と活動的に活発にあそぶ姿がみられます。

これからの1年、子ども達のみせてくれる姿にわくわくと胸を躍らせ成長を楽しみにしています。それぞれが奏でるエピソードが綴られていくこと期待しています。